

第一章 第2節 「旧山宮街道」スルーハイク

～ [太平洋・日本海マリッジ大作戦 (日本第1 運河開通)] ～

それでは、前記「旧塩の道」より少し短い距離でも良いからロングトレイルの練習をしてみようと思いました。そして、標記旧街道を正身 2010 (平成 22) 年 7 月 27 日 (火) 宮城県閑上海岸スタート～8 月 2 日 (月) 山形県湯野浜海岸ゴールまでを 6 連泊 7 日間、ルート沿い計画距離 189 km に対する実歩行距離 208 km を連続連日歩行で踏破しました。1 日平均の実歩行距離は 29.7 km、同時間は 9.8 時間、同平均時速は 3.0 km となりました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図-3 のとおりで、足跡を残した通過県は宮城県と山形県でした。

1. 「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」設定の背景事情

前回 2010 (平成 22) 年の「旧塩の道 (秋葉古道)」の反省を踏まえて、スタート前に [大香ブランド老魂サブタイトル] を練りに練って、「太平洋・日本海マリッジ大作戦 (日本第一運河開通)」と銘打ち、これを抱いて歩いた初めの取り組みとなりました。

事の発端は、会社勤務現役時代に先輩から勧められ、旧六十里越街道を



図-3

歩く事に関心を持ち、鶴岡市朝日町に事務局を置く「アルゴディア研究会」に入会し、2004 (平成 16) 年頃から活動に参加して来ました。休日を利用して部分的に歩いて来ました。まもなく次の事に強い関心が湧いて来ました。それは、旧六十里越街道の基点 (山形市八日町誓願寺周辺) から基点 (鶴岡市荘内神社) まで通して歩く事でした。いわゆる「スルーハイク」です。ところが、この時点で、同街道に係る関係者の中で誰一人として、この間のスルーハイクを経験していないし、やりたいと熱く語る人もいませんでした。「我こそは同街道を知る人ぞ」と自慢げに言う御人は、最低 1 回は早々に、スタートはどちらからでも良いが、基点から基点まで歩き通して、経験してこそ語る資格があると思っていました。ところが、全体の一部を歩いただけで全貌を知っているが如く自慢げに語る人もおりました。同街道を守る活動の中心にいる人達にスルーハイクとは行かないまでも、基点から基点まで、全道をきちんと歩いた人がいないと言う事は一面不思議だと思いました。

そうであるならば、他人の事をとやかく言う必要はなし、そんな事を思う私自身がやれば良いではないか、私がやらずに誰がやる、と決意したのです。そこで、まずは、2010 (平成 22) 年 6 月 24 日 (木) から 6 月 26 日 (日) の 2 連泊 3 日間 (田麦俣泊、本道寺にテント泊) で、鶴岡市荘内神社 (基点) スタート→山形市誓願寺 (基点) ゴールで同街道全区間をスルーハイクして見ました。一气通貫の醍醐味を満喫しました。とても満足しました。なお、普通は 4 日間～5 日間のルートなのでこの時は少々強行軍でした。

その後、逆コースの山形市誓願寺スタート→鶴岡市荘内神社ゴールを歩いて見たいと思うようになり、その場合は、前回とまったくの同じコースではなく、いわゆる脇往還道も取り込んで歩きたいと思いました。そんな事を思いつつ東北の地図を眺めているうちに、吾が山形県と隣の宮城県に焦点が結ぶようになり、前回の「旧塩の道」の失敗が浮かんで来ました。「そうだ、太平洋の海水（塩水・潮水）を汲み取って背負い、今度こそは日本海に注ぐ事を実現したい！」との構想が湧いて来たのです。さらに想像が広がって、海水を背負って歩く行為を用水路の開削作業に見立てたのです。そうすれば、東北のどっ腹に用水路を開削し、呼び水を引いた事になる、ひいては太平洋と日本海を繋いで連結した事になる、結果して合体させた事になると想念しました。曼荼羅金胎两部界を意識し、陰陽二気説を登場させ、太平洋を陽の男、日本海を陰の女に見立てている私にとって、それはすなわち人間の男（太平洋）と女（日本海）の結婚（marriage）に繋がり、私が仲人役になれば良いのだと想念したのです。そしてこの開削した用水路を産道に見立てると共に、運河にも見立て、「日本第1運河」と呼称付けする事とし、「大香ブランド老魂RouConサブタイトル」を見出しの「太平洋・日本海マリッジ大作戦（日本第1運河開通）」に設定したのです。

2. 実践行動へ

(1) 「マリッジ大作戦」（日本第1運河開通）大成功

（翌年の東日本大震災で未曾有の壊滅的被害を受けるなどは予想も出来なかった）宮城県名取市のゆりあげ閑上海岸において、太平洋の海水を汲み上げ入れた200ccペットボトル（図-4上）を背負って、7月27日（火）4時50分スタートしました。旧閑上街道、旧笹谷街道、旧六十里越街道、旧大山街道を繋いで、7日後の8月2日（月）13時30分山形県鶴岡市湯野浜海岸にゴールしたのです。この一気通貫の「歴史街道」を山形と宮城を繋ぐ「旧山宮街道」と私的に名称付けしました。真に縁起が良いと直感がありました。山のお宮です。神霊（山の神・田の神）が宿る山のお宮と重なりました。死霊の里宮→中宮→山宮への昇華、死霊の山宮→中宮→里宮への浮遊降下、山の神の里宮→中宮→山宮への浮揚帰還、山の神の山宮→中宮→里宮への巡覧降臨、に繋がる「山宮」です。

日本海側湯野浜海岸の砂浜・波打ち際に立ち、背負って来た海水のその半分を、同図下のとおり日本海に注ぎ入れました。「マリッジ（結婚）」と言う観念があるので、背負って来た太平洋海水に含まれている塩は男の精子に見立て、そして日本海水の塩を卵子と見立てたのです。これらの情景から次のつたない短歌を詠んで見ました。

“産道を卵（日本海）求めて駆け上る 精子（太平洋）の思いがついに結合“

次に、ペットボトルの空いた半分には今度は日本海の海水を注ぎ入れました。その結合体足る混合水（海水）を自宅に持ち帰り、神棚——この下段は仏壇——に祀り、神仏（先祖）に歩き通せた事に対する感謝の心を捧げ、無事の報告をしました。

(2) 連日が猛暑日

梅雨明けの連日30℃超の猛暑の日々でした。その中に敢えて突っ込んで行った7日間でした。水分補給を上手くコントロールした所せい為か、特に気分が悪くなるなどの熱中症的な体調不良はまったくありません



図-4

でした。なお、この時の前日7月26日(月)は、バスを繋いで行き、宿泊先は閑上浜にある名取市サイクルスポーツセンターでした。

後日談だが、この翌年に発生した東日本大震災後の様子が気になって、2011(平成23)年7月24日(日)、ここ閑上に行って見ました。同センターは無残にも壊滅状態でした。そこに泊まっていた時に津波に^{さら}攫われれば今の私はなかったでしょう。

(3) スルーハイクの醍醐味を知る

この時分ったことです。[太平洋・日本海マリッジ大作戦]と銘打った「大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル」は、前記「第三部 前行程の楽しみ～〔大香ブランド^{だいこう}老魂サブタイトル〕の設定」のとおり、私のスルーハイクの決意の思いの世界を言葉・文字化したものですが、精神的な気概を持続させるための燃料みたいなものに化けて、これが本当に良く効くと言う事を実感しました。まさに心身が推進エンジンとなる、そのように感じた時の率直な思いを次の短歌に詠んで見ました。

“老魂^{ろうこん}の仮想マグマが噴火して 言葉遊びが推進力に”

「歴史街道」に係る7日間・208kmの連日・連続歩行は、スルーハイクとしての初めての経験でした。連続して長時間・長距離を歩き通す事の充実感を噛み締め、「これは出来る、これだ!」と自信と確信を得ました。

(4) 感動

5日目の7月31日(土)、寒河江市の八幡神社(六供町)から西川町志津不動院跡までの西回り往還道を歩いたが、清助新田から下谷沢までの集落はとてすばらしかったのです。古い家(土塀、茅葺き)もあったが、家並みが整然としていて、道路は綺麗、各戸の敷地内も綺麗、隣同士の家と家の間も整理されており、植栽も手入れされていて、挨拶をすると直ぐに笑顔でクイックレスポンス、気持ちの良い集落でありました。地元の人々の一人一人の気品と共に連帯感がひしひしと伝わって来ました。「アルゴディア研究会」の主要活動の中核を成す六十里越歴史街道を、結果してその全道を往復・完歩出来た事に、率直に嬉しく思っています。

(5) ルート確認手法

主要なルートとなる旧六十里越街道については、前記「アルゴディア研究会」等が作成した国土地理院地形図にルートを記述した理想的なマップがある事からこれを活用しました。この市街地については伊藤武執筆「六十里越街道にかかわる歴史と文化(みちのく書房)」を参考に同地形図にトレースしました。

「旧笹谷街道」については、笹谷峠は一度歩いており、全体的には書籍を求めて同地形図にトレースしました。「旧閑上街道」および「旧大山街道」については事前に自家用車で現地に出向き、地元の人達から聞き取りしながら昔からの道を推定し、同地形図にトレースしました。それらを取り纏めて持参しました。そのような事から、前記ガーミン社GPSオレゴン機は所有していなかったが、実際にルートを辿る中で格別悩む事はありませんでした。しかし、率直にGPSオレゴン機があれば、もっと良いのになあという思いが強くなりつつありました。

3. 本トレイルの感想をつたない短歌に

“^{ゆりあげ}閑上の浜に立ちて潮を汲み ^{とどけ}背負い ^ゆ届し ^の湯(野) ^{はま}浜の ^{なぎさ}渚”
“東北の腹部に水路を開削し 背負い潮水が呼び水と成す”
“^{しおだね}東西の海の塩種に色気あり ^{おなご}西の女に東の男”

(end)

② 2010(平成22)年「旧山宮街道」スルーハイク(6連泊7日間)の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< GPS「オレゴン機」不携帯に付き、後日歩行ルートを追跡して、「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ~ 太平洋・日本海マリッジ大作戦(日本第1運河開通) ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先(略称)		
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称	
														a
前日	7月26日	(月)									(前日泊)→	宮城県名取市	名取市サイクルスポーツセンター	
												スタート		
1日目	7月27日	(火)	[閑上海岸砂浜(S)]→長町→合ノ沢(旧二口街道分岐)	27.9	4:50	14:50	10:00	10.0	2.8	晴れ	旧閑上街道	宮城県秋保温泉	秋保グランドホテル	
2日目	7月28日	(水)	(前終点)→釜房ダム→古閑→一の湯温泉	28.4	6:00	16:00	10:00	10.0	2.8	晴れ		宮城県川崎町	一の湯温泉	
3日目	7月29日	(木)	(前終点)→山形市新山→八日町誓願寺	21.5	5:00	12:20	7:20	7.3	2.9	曇り	旧笹谷街道	山形県山形市	自宅	
4日目	7月30日	(金)	(前終点)→替所→寒河江市八幡神社近傍	28.3	5:40	15:20	9:40	9.7	2.9	雨		山形県寒河江市	ビジネスホテルタウンサガエ	
5日目	7月31日	(土)	(前終点)→清助新田→志津	38.1	5:00	16:30	11:30	11.5	3.3	曇り	旧六十里越街道	山形県西川町	清水屋旅館	
6日目	8月1日	(日)	(前終点)→大岬峠→細越峠→十王峠→旧櫛引町中田	40.5	5:10	17:30	12:20	12.3	3.3	時々小雨	旧六十里越街道	山形県旧櫛引町	安野旅館	
7日目	8月2日	(月)	(前終点)→鶴岡市荘内神社→大山→[湯浜海岸砂浜(G)]	23.3	5:40	13:30	7:50	7.8	3.0	一時小雨	旧大山街道		ゴール	
												(最終日泊)→	山形県鶴岡市	竹屋ホテル
				合計	208					189	←ルート沿い計画距離			
				1日平均	29.7	9.8	3.0	27.0						
				km		時間	km/h	km						

- (注1) このトレイルは、閑上海岸スタート→(旧閑上街道)→仙台市長町→(旧笹谷街道)→山形市誓願寺→(旧六十里越街道)→鶴岡市荘内神社→(旧大山街道)→湯野浜海岸ゴールと繋いだ。
 いわば、4つの「旧街道・古道」を繋いだものであり、「旧山宮街道」と命名したものである。
- (注2) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、19km(1日当り2.7km程)長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジグザク歩き方の影響による。
- (注3) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間(片道15分・500m程度超過)街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。